

登録コード	EKG09900	開講年度	2026				
授業科目	特別支援教育教材開発研究				担当教員	戸谷 健史 他	
英文授業名	Study in Development of Teaching Materials for Special Needs Education				副担当	梶見 友輔・宮地 弘一郎・下山 真衣・奥村 真衣 子・上村 恵津子	
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	履修学年	1
講義室			授業形態	演習	備考		
信大コンピテンシー	該当						
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】				【授業の達成目標】		
	2 6 E Aカリ, 2 5 E Aカリ, 2 4 E Aカリ						
	教育の専門職としての学識・技能				主として特別支援学校に在籍する事例を対象とした指導実践およびそのための教材・教具開発を通して、最新の教材開発やICT・ATを活用した教育方法論の知識を得ることによって、特別支援教育における教材観の形成を図る。 特別なニーズのある子どもの発達支援のための方法論を修得する。		
	子どもの多様なニーズへの対応力				特別なニーズのある子どもの指導で用いる教材や教具の意義と機能を知ると共に、効果的な教材・教具の開発や活用方法について理解し、教材・教具を活かした指導計画や学習過程を構想することができるようになる。また、必要な教材・教具を開発・作成することができるようになる。		
(2)授業の概要	・主として特別支援学校に在籍する事例を対象とした指導実践およびそのための教材・教具開発を演習および実習形式で行う。 ・特別なニーズのある児童または生徒を対象として、教材・教具開発と教材活用についての研究と発表を行い、質疑応答・討議する。最新の教材開発やICT・ATを活用したデジタル教材等についての知見を取り込みながら、個別の特別なニーズに対応した教育における教材観の形成と具体的な教材・教具の開発をおこなう。 ・教材・教具の役割や価値を把握して、発達目標を達成するためにはどのような教材・教具がよいか、また、教材・教具をどのように活用して児童・生徒の学習を促進するかについて、事例の観察参加を含めた演習を通して検討する。その上で、事例の指導目標に基づいた教材・教具の開発と指導計画の作成を行い、指導の実践を行う。 ・担当教員が、特別支援学校等での実務経験を生かして演習を行う。						
(3)授業計画	受講生ごとに、指導実践の対象となる事例を踏まえた専門領域の教員複数名で指導を行う。 第1回：ガイダンス—授業の目的、演習および実習の方法 第2～3回：特別支援学校における観察参加とアセスメント 第4回：対象事例の指導目標の検討 第5回：各自の問題意識に基づく教材開発の方法の理論と既存教材・関連研究の分析 第6～7回：各自の問題意識に基づく教材・教具の開発と指導計画の作成 第8～13回：対象事例への指導実践の実施 「事例への指導」「指導の評価」「開発した教材・教具の改良と指導方法の改善」を繰り返しながら、指導目標を達成するための実践を行う。 第14回：各自が開発した教材・教具開発の成果とまとめ（レポート提出） （実践フィールド例） ・信州大学教育学部附属特別支援学校 個別指導の時間 ・公立校在籍生徒 教育学部施設（ブレイルーム、学習室）での定期指導						
(4)成績評価の方法	成績評価の考え方は、次の通りである。 ・授業の達成目標 ～ に関わる「質疑応答・議論の内容」：20％ ・授業の達成目標 ～ についての理解度を確認する「演習における発表内容」：30％ ・授業の達成目標 ～ の到達度を確認する「最終レポート」：50％ ・評価割合は、若干の調整をおこなうことがある。 ・得点率による評価基準は次の通りとする。 90％以上 秀, 89-80％ 優, 79-70％ 良, 69-60％ 可, 59％以下 不可						
(5)履修上の注意	・原則として教職基盤形成コースの1年生を対象とする。 ・実習については、受講生、担当教員、実習校、の間で相談し日程調整を行う。						
(6)質問、相談への対応および連絡先	オフィスアワー：担当教員への質問・連絡方法は、各自担当教員と相談して決定すること。 なお、別表「担当教員のオフィスアワー」を参照すること。						
(7)成績評価の基準	「卓越している」：(1)研究課題、(2)理論的枠組み、(3)授業内容と専門性、(4)研究の意義、のすべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表、討議、およびレポート構成が実現できた上で、(1)～(4)のうち3つ以上について発展的な発表、討議、およびレポートが実現できている。 「かなり上である」：上記(1)～(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表、討議、およびレポート構成が実現できた上で、(1)～(4)のうち2つについて発展的な発表、討議、およびレポートが実現できている。 「やや上にある」：上記(1)～(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表、討議、およびレポート構成が実現できた上で、(1)～(4)のうちいずれか1つについて発展的な発表、討議、およびレポートが実現できている。 「水準にある」：上記(1)～(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表、討議、およびレポート構成が実現できている。						

(8)事前事後学習 の内容について	この授業は90時間の学習を必要とする内容です。従って、30時間以上の時間外学習が必要です。 【事前学習】 ・指導実践および教材開発の課題に関連した文献等を，図書館等で検索・収集し，指導目標の設定方法や指導方法論に着目して要約したり，吟味したりすること。 【事後学習】 ・演習および実習を通じて生まれた課題について，事後に各自で調べて再検討すること。
【教科書】	指定しない。
【参考書】	授業の中で適宜紹介する。